

未来につながる私の防犯

山口県周南市立岐陽中学校 2年 ^{にしお}西尾 ^{みの}美乃



外気温37度。朝から鳴いていたセミの声は静かになり、太陽の日差しがギラギラと照りつける夏休みの午後。部活の帰り道、「あっ、取った。」

おばあさんがよその家の庭のお花を摘み取り、持ち去るところを見ました。私はドラマの中の刑事になったつもりでおばあさんの後ろをつけました。おばあさんのゆっくりした足取りに合わせて、私もおばあさんの少し後ろをゆっくり歩きました。私の家の前を通りすぎ、100メートルくらい歩いたところにあるアパートの階段を、軽い足取りで上って行きました。顔も知らない、名前も知らないおばあさんでしたが、私の家からこんなに近くに住んでいるとは驚きでした。ドラマの刑事のように声をかけて問いただすことも張り込むことも何もできず、ただおばあさんの家を知るだけでした。モヤモヤした気持ちのまま私は自分の家に帰りました。その日のことは誰にも話さず、自分の心にそっとしまいました。

別の日。「あっ、また取った。」

またあのおばあさんでした。私に気付いたようでしたが、悪気もない様子でした。前は驚くばかりでしたが、今回はおばあさんの行動一つ一つをしっかり見ることにしました。きれいに咲いているお花を探して、慣れた手つきでポキポキ折って取りました。お花を持って歩いて帰るおばあさんの後ろ姿を見て、私は心の中で迷っていました。注意するべきか、それとも前のように見て見ぬふりをするべきか。おばあさんより何十歳も年下の私が偉そうに注意していいのか。注意をして反対に何か言われたらどうしたらいいのか。そもそもおばあさんは悪いことをしているのか。頭の中で考えている間に、おばあさんの姿はアパートがある方へ小さく消えていきました。

心は重く暗く、まるでゴールのない迷路に入ったようでした。一人でいくら考えても答えは見つかりません。その時、お母さんの「何かあった？どうしたん？」の声がしました。今日あったこと、先日おばあさんのアパートの前まで付いて行ったこと、全て話しました。そして、また次に同じことがあった場合、私はどうするべきなのか話し合いました。

まず、一つ目。おばあさんの後ろを付いて行ったことについてです。とっさにおばあさんの後ろを付いて行った私でしたが、その後のことを全く考えていなかったことに気付きました。もし、おばあさんの家が遠くだった場合や危ない場所だった場合、事故に巻き込まれた場合など様々な危険が考えられます。だから、何があっても、絶対に一人で付いて行ってはいけないということです。

二つ目は、お庭の持ち主への連絡についてです。持ち主は大切に育てているお花を勝手に摘み取られて困っているかもしれません。反対に、もしかしたらおばあさんと知り合いで、「いつでも好きなお花をどうぞ。」という約束になっていたのかもしれません。私はおばあさんに注意するべきかどうか迷いましたが、お庭の持ち主に確認することでこの迷いは簡単に解決できるとわかりました。

三つ目は、身近な大人に伝えることについてです。なぜ、私はすぐ伝えることができなかつたのか。それは、私にとっておばあさんの行動はあまりに衝撃的で、口に出すのが怖かったからです。大人に相談することで自分の行動を振り返り、また同じことがあった時はどう行動すべきなのかを考えることができました。何より心の重みが軽くなりました。

四つ目は、被害に遭わないような対策、「防犯」についてです。お母さんは以前、近所の人から玄関前の花鉢がとられる被害に遭った話を聞いて、大切な鉢やお花は玄関前に置かないことにしています。お庭の持ち主も大切なお花はネットを被せるなど取られない対策が必要なのではないかと思います。

最後、五つ目は、お花を持ち去ったおばあさんについてです。どんな気持ちで他人のものを取って家に戻ったのか。飾ったお花を見て心は痛くないのか。私にはおばあさんの気持ちは全く分かりません。あれからおばあさんの姿を見ることはありませんが、またどこかで同じようなことをしているのかなと思うと、心がズシンと重くなります。年をとったおばあさんだし、お花の数本くらいは許してあげようと言う人もいるかもしれませんが、私は絶対に許せません。小さなことが大きな犯罪につながる前に防いでおくことが何より大事だと思うからです。

今回、おばあさんの行動から、改めて犯罪を起こさないこと、犯罪に巻き込まれないことの大切さを知りました。今、13歳の私にできる「防犯」は何なのか。家族でできる「防犯」は何なのか。この機会にもっと深く考えてみたいのです。そして、未来へつながる安心安全な街を作っていきたいです。